社会思想史事典

社会思想史学会 編　A5判・888頁　定価（本体20,000円+税）　ISBN978-4-621-30341-2

社会思想史上の重要なトピックを有機的に把握できるように、ルネサンス期から21世紀の現在に至る〈近代〉の歴史的な展開を見通せるように時系列に沿った全５部構成にし、それぞれの時代の思潮の全体像を立体的に浮かび上がらせる。社会思想史学会が総力を挙げて編纂に携わった「読む事典」。

関連図書

社会学理論応用事典

日本社会学会 理論応用事典刊行委員会 編　今田高俊 編集委員長　A5判・952頁　定価（本体20,000円+税）　ISBN978-4-621-30074-9

スクリブナー思想史大事典（全10巻）

スクリブナー思想史大事典翻訳編集委員会 訳　野家啓一 翻訳編集委員長　B5判・4142頁　定価（本体300,000円+税）　ISBN978-4-621-08961-3

世界宗教百科事典

世界宗教百科事典編集委員会 編　井上順孝 編集委員長　A5判・914頁　定価（本体20,000円+税）　ISBN978-4-621-08577-6

150th MARUZEN

丸善出版株式会社 https://www.maruzen-publishing.co.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17　神田神保町ビル6F　書籍営業部　TEL(03)3512-3256　FAX(03)3512-3270

丸善出版：発行　FAX 03-3512-3270

注文書

社会思想史事典 ISBN978-4-621-30341-2 定価（本体20,000円+税）　＿＿＿冊

＿＿＿冊

お名前

ご住所　〒

TEL

取扱店

※ご注文いただいた個人情報は、書店、取次（流通）・弊社間での商品手配の目的に利用させていただきます。

Sun.18.A0D

丸善 創業150周年記念出版

社会思想史学会 設立40周年記念出版

社会思想史事典

History of Social Thought

社会思想史学会 編

A5判・888頁　定価（本体20,000円+税）
ISBN978-4-621-30341-2

編集委員一覧

編集幹事
安藤隆穂　名古屋大学 名誉教授
上野成利　神戸大学大学院国際文化学研究科 教授
植村邦彦　関西大学経済学部 教授
齋藤純一　早稲田大学政治経済学術院 教授
坂本達哉　慶應義塾大学経済学部 教授
三島憲一　大阪大学 名誉教授

編集委員
犬塚　元　法政大学法学部 教授
鵜飼　哲　一橋大学大学院言語社会研究科 特任教授
宇野重規　東京大学社会科学研究所 教授
梅森直之　早稲田大学政治経済学術院 教授
大貫敦子　学習院大学文学部 教授
奥田　敬　甲南大学経済学部 教授
小田川大典　岡山大学大学院社会文化科学研究科 教授
後藤浩子　法政大学経済学部 教授
中山智香子　東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授
野村真理　金沢大学人間社会研究域 教授
細見和之　京都大学大学院人間・環境学研究科 教授
森川輝一　京都大学大学院法学研究科 教授
山岡龍一　放送大学教養学部 教授

丸善出版

刊行にあたって（一部抜粋）

社会思想史が過去の思想を検討の俎上に載せる営みなのだと聞けば、ずいぶんと後ろ向きの学問ではないかと思われるかもしれません。しかし実際には，社会思想史ほどアクチュアルな学問はない、といってもよいでしょう。冷戦構造の崩壊した20世紀末以降、グローバル化と情報テクノロジーの革新が加速度的に進むにつれ、人びとの活動は国境を越えて拡がり、コミュニケーションのありようも急速な勢いで変化し続けています。これまで自明とされてきた近代的な制度や思考の枠組みは根底から揺らいでおり、従来の常識から脱却して新しい仕組みを早急に整えることが喫緊の課題となっているともいえます。とはいえ、そうした課題に取り組むためには、これまで私たちがどのような社会の中で生きてきたのか、それはいかなる思考の枠組みに規定されていたのか、そこにはどのような問題が潜んでいたのか、こうした問いにまずは真剣に向き合う必要があるでしょう。つまり、現在を形づくってきた近代のさまざまな思考の枠組みを精査することなしには、未来への展望もまた開かれることはないだろう、ということです。社会思想史という学問の現代的な意義もまたそこにあります。

もちろん社会思想史という学問の内実も、時代とともに大きく変わりつつあります。とりわけここ数十年のあいだに人文・社会系の学知に生じた大きな地殻変動は、社会思想史にとっても決して無縁なものではありませんでした。社会思想史研究はこれまでの知見の膨大な蓄積をふまえながら、最新の研究成果を不断に取り入れることで、その内実を日々刷新し続けています。本『社会思想史事典』は、こうした現在進行形の知的営為の中で生み出された成果の一つだといえるでしょう。

本事典の特色を一言でいえば、「読む事典」を目指したところにあります。小項目が50音順で並べられている通常の事典のスタイルの場合、形式上の制約からどうしても知識の断片化に陥ってしまう嫌いがありますが、本事典では各項目に比較的大きな紙幅を割き、それを時系列とテーマに沿って配列し、社会思想史上の重要なトピックを共時的・通時的な連関の中で有機的に把握できるように編纂しました。大枠としては、ルネサンス期から21世紀の現在に至る〈近代〉の歴史的な展開を見通せるように、時系列に沿った5部構成としています。あるいは、これ自体が〈近代〉という「大きな物語」を前提とする発想にとらわれているのではないか、という異論もあるかもしれません。しかし、〈近代〉を根底から問い直すという今日的な課題に応えるためにも、〈近代〉を軸に構成されてきた社会思想史研究の到達点をふまえる必要があると考え、本事典では最もスタンダードと思われる社会思想史の枠組みを踏襲することにしました。

もとより、〈近代〉とはヨーロッパを唯一の範型とする単一の過程なのだという見方を、ここで前提としているわけではありません。なるほど、市場経済や主権国家といった社会システムにせよ、あるいは小説という文学形式や遠近法という絵画技法にせよ、こうした西洋近代に端を発する一連の社会的・文化的装置が現代世界の大きな枠組みを形づくったことは間違いありません。しかし西洋近代もその内部は一様ではなく、ましてや西洋近代を普遍的なモデルとして非西洋圏の近代を理解することは不可能だというべきでしょう。いずれにせよ、近代的な思考の枠組みが根底から揺らぎつつある現在、ここ数十年の学知にみられた近代批判の動向もふまえつつ、〈近代〉の可能性と限界を問い直すことは、必須の作業となっています。〈近代〉を軸に社会思想史を再構成しようとする本事典の試みは、そのための礎石となることでしょう。こうした意図を汲んでいただき、本事典が多くの方々にご活用いただけるのであれば、これに優る喜びはありません。

2018年11月

『社会思想史事典』編集幹事一同

目　次

社会思想史への誘い
——方法・視座・アクチュアリティ

社会思想史の成立／社会思想史の方法／社会思想史の視座①／社会思想史の視座②／社会思想史のアクチュアリティ①／社会思想史のアクチュアリティ②

第Ⅰ部　近代の形成
——ルネサンス期から17世紀へ

［編集担当：安藤隆穂・奥田 敬・山岡龍一］

第1章　ルネサンス
マキァヴェッリ／ルター／カルヴァン／ホッブズ／ロック／スピノザ／ライプニッツ／ルネサンス／レトリック／人文主義／共和主義／文芸共和国／新プラトン主義／ローマ法／大航海時代／儒教—東アジアでの展開／儒教—ヨーロッパへの影響

第2章　宗教と科学
宗教改革／対抗宗教改革／寛容／自由意志／経験主義／合理主義／懐疑主義／キリスト教共同体／科学革命／新旧論争（古代・近代論争）／神秘主義

第3章　近代国家の胎動
ユートピア思想／主権／国家理性／文明と野蛮／エピクロス主義／自然法／社会契約説／立憲主義／所有権／抵抗権／戦争と平和

第Ⅱ部　近代の確立
——18世紀から19世紀初頭へ

［編集担当：坂本達哉・犬塚 元・後藤浩子］

第1章　文明社会の出現
ヴォルテール／ハチソン／マンデヴィル／啓蒙とは何か／フランス啓蒙思想／スコットランド啓蒙／イタリアの啓蒙／ドイツの啓蒙／科学とアカデミー／経験主義 対 合理主義／教会と啓蒙／ミッション／理神論・自然神学／啓蒙・無神論・懐疑主義／自然法学／情念／利己心と社交性／「富と徳」論争／奢侈論争／政治算術／民兵論争

第2章　文明社会の擁護
モンテスキュー／ヒューム／スミス／百科全書／フランス唯物論／道徳感覚から共感・同感へ／スコットランド道徳哲学／良心と常識／言語起源論／推測的歴史／重商主義／勢力均衡論／フィジオクラシー（重農主義）／勤労・分業・生産力／市民的公共圏／東アジアの公共圏／人口論争／国民性・生活様式・風土／名誉と騎士道／啓蒙と野蛮／博物学

第3章　文明社会の危機
ルソー／カント／18世紀の社会契約説／社会契約説批判／ベンサム／18世紀の共和主義／一般意志と人民主権／啓蒙専制／古典派経済学の成立／18世紀の功利主義／イギリス急進主義／アメリカ革命をめぐる諸思想／フェデラリスト／フランス革命をめぐる諸思想／保守主義／帝国と植民地／美と崇高／ジャコバン主義／官房学／女性解放思想

第Ⅲ部　近代の矛盾
——19世紀前半から世紀後半へ

［編集担当：植村邦彦・宇野重規・小田川大典・野村真理］

第1章　国家と社会
トクヴィル／ミル／個人主義／イギリス自由主義／フランス自由主義／功利主義／反革命·反動の思想／プラグマティズムの形成／チャーティスト／イギリス観念論／ナショナリズム／インターナショナリズム／奴隷解放運動／ユダヤ人問題／アメリカ問題／世論／反ユダヤ主義の成立／ナロードニキ／自由民権運動／ボナパルティズム

第2章　資本主義と社会主義
ヘーゲル／マルクス／アソシアシオン／フーリエ主義／オーウェン主義／協同組合運動·協同組合思想／サン=シモン主義／共産主義／私有財産制批判／社会問題／社会主義／リカード派社会主義／ブランキ主義／ドイツ観念論／青年ヘーゲル派／疎外·疎外論／物象化·物象化論／階級／資本主義／唯物史観／赤旗／プルードン主義／アナキズムの形成／産業化／労働運動／連帯の思想／貧困／救貧法論争／キリスト教と社会主義

第3章　科学と芸術
デュルケーム／イデオロギー／インテリゲンツィア／進化論／社会進化論／社会有機体論／優生学／実証主義／写実主義（リアリズム）／フランス·スピリチュアリスム／ライシテ／唯美主義·耽美主義／ドイツ歴史学派／歴史主義／イギリス·ロマン主義／フランス·ロマン主義／ドイツ·ロマン派／生の哲学／超越主義／新カント派／文明開化／アーツ·アンド·クラフツ運動／統計革命／権利（日本の場合）／グリム兄弟

第Ⅳ部　近代の危機
——19世紀末から20世紀前半へ

［編集担当：三島憲一・中山智香子・細見和之］

第1章　イズム（主義）の時代
ガンディー／社会民主主義／アナキズムの展開／人種主義／ロシア革命／中国革命／植民地主義／近代日本の植民地主義／暴力論／反ユダヤ主義／地政学／保守革命／植民地解放運動／明治維新論／男女差別と男女平等思想／帝国主義／世界戦争と総力戦／ヴェルサイユ体制／オーストロ·マルクス主義／ディアスポラ／反戦運動·平和主義／自由主義の変容／ファシズム·全体主義／国体論／スラヴ主義／ジェノサイド／ホロコースト／シオニズム／原子爆弾／戦争責任·戦後責任

第2章　さまざまな社会理論の時代
ヴェーバー／ケインズ／フォーディズム／啓蒙の弁証法／プラグマティズムの展開／構造機能主義／官僚制／マネジメント（経営管理）の思想／社会政策／恐慌と政策／開発·発展理論／都市／民俗学と考現学／余暇·奢侈·有閑階級／社会学の成立／社会史／エコロジー／ジャーナリズム／大衆（群衆）·群衆心理学／金融資本主義

第3章　危機の中の文化
ニーチェ／ハイデガー／ベンヤミン／フロイト／ペシミズム／青年運動／多元論·多元主義／生活改革運動／アール·ヌーヴォー，ユーゲントシュティール／未来派，ダダ／シュルレアリスム／バウハウス／モダニズム／教育思想／否定神学·自由教会（無教会）運動／性科学／歴史言語学／ユダヤ神秘主義／科学政策／科学史の成立と展開／オリンピック思想／対外文化政策／映像（イメージ）／プロパガンダ／記号論／解釈学／精神分析／現象学／近代の超克／人類学の思想／ポランニーと経済人類学

第Ⅴ部　近代の転換
——20世紀後半から21世紀へ

［編集担当：齋藤純一·鵜飼 哲·大貫敦子·森川輝一］

第1章　理性批判と規範の再／脱構築
アーレント／全体主義論／実存主義／批判理論／20世紀のマルクス主義／システム論／構造主義／フーコー／ポスト構造主義／デリダ／ディスクール，エクリチュール／言語論的転回／ポストコロニアリズム／ヘゲモニー論／ポスト世俗社会／世界システム論／ロールズ／リベラリズムの現在／ハイエク／リバタリアニズム／平等主義／デモクラシー論の展開／戦後民主主義／戦後マルクス主義／合理化論／1968年の思想／日本人論·日本文化論／ハーバーマス／公共圏／現代の共和主義／共同体·コミュニタリアニズム／立憲主義の現在／カトリック社会思想／人権論の展開／フェミニズム·ジェンダー／日本のフェミニズム／家族／親密圏／クィア（LGBT）スタディーズ

第2章　関係／秩序の変容と再編
福祉国家·社会国家／グローバル化と市場の再編／新自由主義／福祉社会の再編／ケア／大衆社会論／ポピュリズム／消費社会論／市民社会／カルチュラル·スタディーズ／教育·学校／ポスト冷戦下の世界／国民国家の行方／ナショナリズム論の展開／移民問題／多文化主義／集団的記憶·歴史修正主義／歴史認識と和解／先住諸民族／沖縄／解放の神学／公民権運動／反戦平和運動／市民運動·住民運動／グローバル·ジャスティス運動

第3章　環境の変化と権力の再編
リスク社会／安全保障／テロリズムと対テロ戦争／災害と防災／伝染病と防疫／生権力／格差社会と隔離／情報化とインターネット／公害／環境／テクノロジー／生命倫理

見出し語五十音索引／参照引用文献／リーダーズ·ガイド／事項索引／人名索引